

様式 I 普及に移しうる成果

(成果区分) 科学技術情報

(課題名) 漁獲物加工特性研究 (バフンウニ苦みの季節変動)

(場所名等) 水産試験場 漁場環境部

(参考文献) 平成17年度水産試験場事業報告書

(別紙コード表による) 分類コード 19-03-09155700

部門名 水産業-利用加工-採貝藻、市場・流通、その他魚種 (海)

担当者 齋藤 健

I 新技術の解説

1 要旨

本県におけるバフンウニは、相当量生息しているにもかかわらず、苦みがあるということで、ほとんど利用されていない。これの利用を促進するため、苦みが雌のみであることと、苦みの季節変動について明らかにし、効率よく利用できる時期を検討した。

食用となるのは生殖腺で、この重量の全体重量に占める割合 (生殖腺重量/重量×100、以下「生殖腺指数」とする) の変化を図1に、雌の苦み割合の変化を図2に、生殖腺の液状化 (一般に「とける」と呼ばれる) 程度として雌の滲出液量割合を図3に示す。

生殖腺指数は、6月から11月が高く、苦みの強さは、6月から10月が弱く、滲出液量は、平成16年が5月から10月にかけて、平成17年が8月から9月にかけては少なかった。

バフンウニの利用にあたっては、利用できる重量が多く、品質的に優れ、商品価値があるという条件がそろわなければならない。今回の調査では、重量の指標として「生殖腺指数」を、品質の指標として「苦みの強さ」と「滲出液量」を用い、利用可能な時期を検討した結果、表1のとおり本県でバフンウニを効率よく利用できる時期は、7月から9月が適当であると考えられた。

2 期待される効果

苦みに周期 (季節性) があることが判明したことから、無処理での利用に目途がつけられたことと苦み除去試験による対象時期を選定する資料となる。

あわせて、現在駆除されている未利用水産物の有効利用が図られるとともに、有用種として利用されているキタムラサキウニの餌料競合が緩和され、磯焼け対策の一助となる。

3 適用範囲

水産行政、漁業者、水産加工業者

4 普及上の留意点

現在取組中の苦み除去試験は、苦みの強い冬季サンプルで実施しているが、今回の結果から利用できる時期に近い、6月、10月のサンプルによる苦み除去試験を実施し、長期間の利用が可能かどうかを検討していく必要がある。産業的に利用する場合の問題点の整理が必要である。

II 具体的データ等

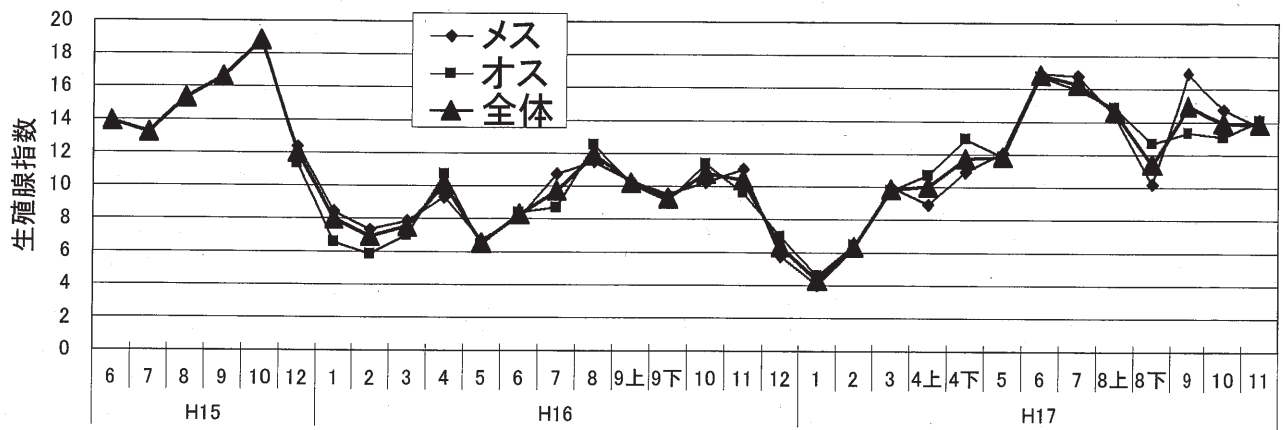


図1 生殖腺指数の変化

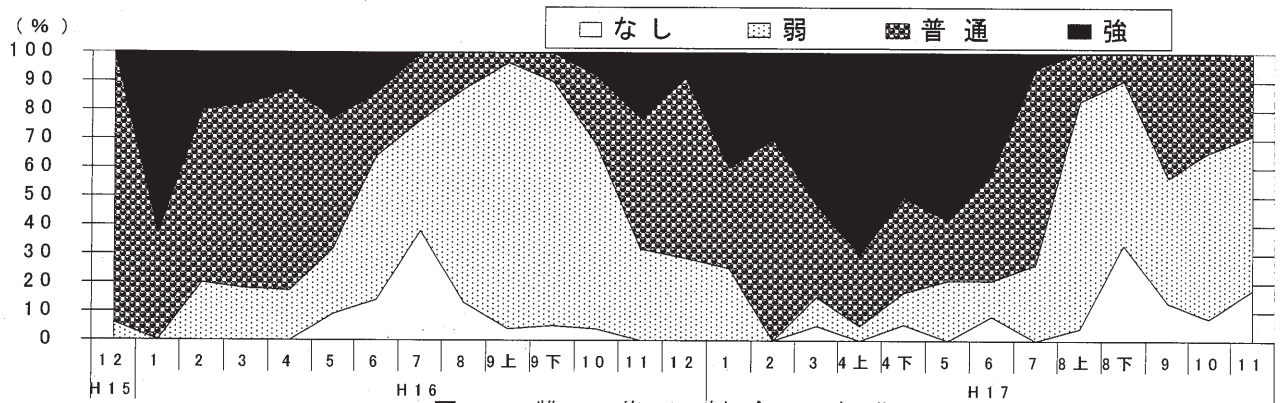


図2 雌の苦み割合の変化

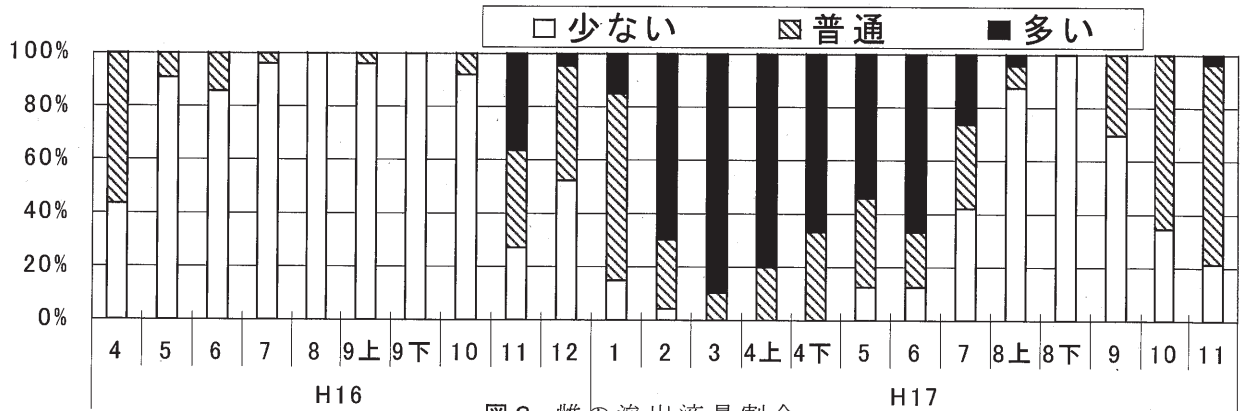


図3 雌の滲出液量割合

表1 利用を決める一覽表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12 (月)
雌生殖腺指数	×	×	△	△	△	○	○	○	○	○	○	△
雄生殖腺指数	×	×	△	△	△	○	○	○	○	○	○	△
雌苦み	×	×	×	×	×	△	○	○	○	△	×	×
雄苦み	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雌滲出液量	△	×	×	△	○	○	○	○	○	○	△	△
雄滲出液量	×	×	×	△	△	△	○	○	○	○	×	×

○-適、△-やや不適、×-不適

III その他

1 執筆者 : 齋藤 健

2 その他の資料等 : 水産試験場研究報告第13号、平成16年度事業報告書